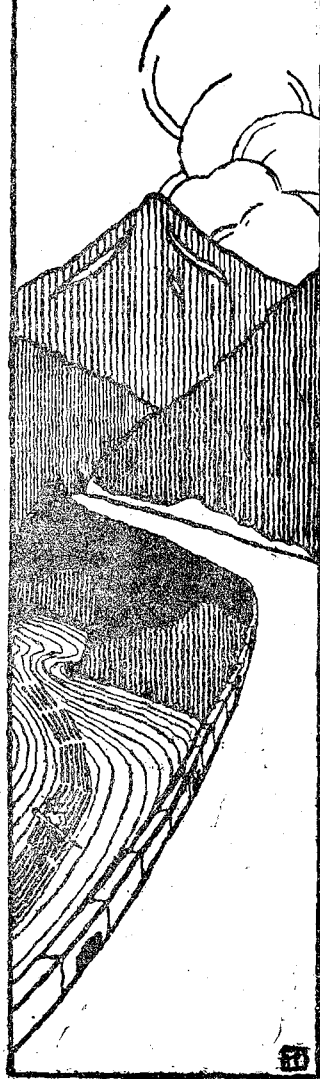


介 紹



和歌山縣に於ける新道路計畫

幹 事 田 中 好

惠まれざる紀州

文明は人の豪氣を軟化すと言ふ批難はあるが、今の世に好むで紀の國屋文左衛門の冒險を敢てする必要は無い、文明が齎した利器を應用し冒險から離脱して冒險に依つて齎す所の効果と同一のものを收むれば足るのである。此處紀

州の國紀南の地方は不幸にも文明の餘光に浴することが出来ず依然として文左衛門時代の國民生活を繰返して居る。

之が爲に地方民は曩年鐵道の敷設を希望し文化の生活に沾はむものと運動した結果、政府の鐵道網に紀南の海岸に沿ふ所謂和歌山相可間鐵道の追加さるゝことゝ爲つた。併しながら工事完成の時期は今から十年後の大正二十五年三月

で、折角運動して編入して貰つた鐵道の敷設もあたら雲間に片鱗を眺むるやうなことを、爲つたが、此地方民をして狂喜せしめたのは鐵道に代るべき自動車道路である。自動車

さへ通行すれば十年先の鐵道敷設を待つ必要は無い、せめて命のある内に文化の餘光に與り度いものとは地方民の一般が熱望する所であつたが、自動車の通行すべき同地方に於ける道路の状況を觀ると、田邊以南の大部分は名だけの道路であつて車輛の通行を許す道路は無い、漸くにして人馬を通行せしむるに過ぎない程度のものであつて、同地方民は己むなく海運に依つて交通するより外無い狀況である、然るに唯一の交通路である同地方の海上は昔から名高い紀州灘で風浪常に高く、一年の五分の二以上は航海不能に陥るので其の間は居村籠城の苦を嘗めねばならぬ、従つて自然が吾等に附與した豊庫の開拓も手の附けようが無い、此不利益は獨り同地方民のみならず國力に影響するのであるから之が開拓策に意を注ぐのは當然であるが、之を爲すことが積極政策なりとして俗論に排せらるゝ現時であ

るから、事を著しく困難ならしむるのである、此困難を排して樹立せられたのが紀南地方に於ける自動車道路計畫である。

事業の計畫

事業を創始するに至つた趣旨からして立派な整澤道路を築造し技術慾を満足せしむるやうなことは到底許されない、紀南地方の幹線道路である田邊から海岸に沿ひ串本に至る府縣道田邊串本線と、田邊から鮎川、栗栖及近野の諸村を経て請川村に至る府縣道請川串本線の二道路延長七萬二千五百間を自動車の通行に危険なき程度を標準として改修するのである、故に己むを得ない箇所は格別であるが成るべく舊道を利用する方針を採つて路幅を擴張し勾配を緩和し屈曲を矯正することにして居る、幅員は九尺であつて道路構造令の規格に適合して居ないが、其の交通上に於ける不足を補充する爲に一町乃至二町の間隔を以て千百七十五箇の待避所を設け、地形上己むを得ない箇所の坂路は延

長百間以内に於て最急十分一、曲線は最小半径六間を限度として計畫して居る、改修計畫としては姑息の嫌あるが吾々が理想として居る道路構造令の規格に改修することは地形の關係上からして困難であるのと、巨額の工費と幾多の歳月を要し其の實行が覺束ないので言はば應急的改良工事を目論たのである。

此計畫の實行に要する工事費は六十一萬三千六百圓であつて、大正十五年度十萬圓、十六年度十六萬四千三百圓、十七年度五萬二千二百圓、十八年度二十九萬八千圓を支出する四箇年繼續事業である、之が財源は普通の道路改良工事の財政計畫に觀るが如き豫斷的の起債に俟つのでなく、大正十五年度に於ける課税を標準とし主として一般歳入を以て充つるのである。唯だ異彩を放つものは工事費の一部を熊野自動車株式會社の寄附金十五萬圓を以て充當することである、其の寄附行爲は財政計畫の重要財源たると共に實は本事業創始の主因を與へたことを表證するものである、前に述べたやうに此計畫は鐵道に代るべき自動車の効用に

浴せむとする縣民の熱烈な希望に胚胎するのであるから、改修後に於ける道路を利用すべき自動車會社に工事費の一部を出損せしむることは條理上當然であるが、其の會社を設立せしむべく慫慂したのが本事業に於て着眼すべき唯一のものである、當初縣は此計畫を樹立するに方つて考慮したのは財源を何れに求むるかと言ふことであつたが、愛道の觀念を鼓吹し遂に關係地方有志と沿道三十數ヶ町村長の職に在る者をして會社を發起せしめ熊野自動車會社を創立せしむるに至つて改修工事費の約二割五分に相當する寄附金を觀るに至つたのである。

餘 論

此計畫の實現に依つて惠まれなかつた紀南一帶の寶庫が如何に開發されて行くか、圖面を手にして其將來を思ふとき吾人は關係地方民の喜び以上に欣快の情に堪へない、今の地方長官の多くが地方の經濟事情を考察することなく政府の緊縮政策に盲從して何事も是れ消極に方め「一文惜み

の百知らず」の感あるとき、我が敬愛する長官長谷川久一氏に依つて此無理解な行政打破が企てられ内務當局も亦此計畫に賛成して繼續費豫算を許可したことは、吾人積年の主張が容れられたものであつて正論はいつかは勝つべきことの眞念を確ならしめた。

今期議會の情勢に徴するときは政府の財政緊縮方針も其の誠意を疑ふに至つたばかりでなく、某閣僚の如きは從來の聲明を捨て、此後は積極政策を採るべきことを言明するに至つたとき、夫れよりは先に民衆の聲に聽き此計畫を樹立して縣民百年の希望を容れた長谷川氏こそ其の賢明を推賞すべきである、喰祿の急なる地方長官の大部が政府の命に盲従するのは恕すとしても、縣民に其の犠牲を對價ならしむることは被治者の堪ふる所ではない、此計畫に依る道路構造其のものは敢て誇るべきものではなく悪路の標本である長谷川長官東京私邸前の道路と異ならないが、人肩馬背の交通から兎角一躍して自動車交通に急變せしめむとする其の効績は、物忘れの可い和歌山縣人でも恐らく後世まで

忘れないであらう。

緊縮方針に名を藉つて國道の架橋を中止したり無暗に緊縮を假裝して必要の費用も追加豫算に俟たむとする賣名的地方長官の爲に本事業を紹介し其の反省を求めて己まないと同時に、紀の國屋文左衛門の冒險を爲さずとも同一の利益を受くるに至つた紀南縣人の爲に祝杯を擧げて筆を擱く。

◇ ×
◇ ×
◎ 窓の無い地方公共團體

國庫補助を受け道路工事を施行する地方が、年度開始と共に補助金を受くる権利が発生して居るに不拘、年度閉鎖間際になつて内務省の督促を受け始めて補助金の交付を請求する有様で、殊に夫れが財政難を口癖のやうに言つて居る團體に多いとは、地方の暢氣さ加減は當局も不思議がつて居る(た)

